

新しい漢字よりも反復が大切

学校では、熱心な先生でも、覚えるまでは反復して熱心に教えますが、覚えてしまったらそれで完了とばかり、それ以上には反復練習することをしません。勿論、覚えられないのは、覚えられない子供が悪いのだ。こちらからは、覚えようが覚えまいが、教えるだけで責任は果たしたことになるのだ、という先生もいますが、これは論外です。

しかし、言葉や文字の学習は、これを覚えるまでの反復練習よりも、覚えてからの反復練習の方が重要なのです。そもそも、言葉や文字の学習は、それを覚えることよりも、それを使うことに意味があるのですから、覚えるための練習よりも、使うことの練習(覚えてから後の練習)の方が多くなくてはおかしいことです。

ところが、親でも教師でも、覚えるまでの学習には熱心でも、覚えてからの学習には極めて冷淡です。余計なこととばかり、子供が熱心に練習していても、これを賞めるどころか、「もういい加減にきなさい」と、ブレーキを掛ける親や教師が多いようです。

言葉や文字というものは、「考えて正しく使う」というものではありません

ん。「ひとりで正しく使える」ようではなればなりません。それには、いくら反復練習しても、繰り返し過ぎるということはないのです。

幸い、幼児というものは、“反復”が好きで好きでたまらないように出来ています。だからどんな言葉でも完全に身につけることに成功できるのです。大人で外国語の学習に成功しにくいのは、この反復が苦手だからです。だから、“よく考えないと話せない”程度の語学力しか身につかないのです。

野球でも、走ること、投げること、バットを振ることは、どんな大選手になっても決して怠りません。いや、そういう基本的なことを飽きずに反復練習できる人が、大選手になれる資格があるのだ、と言うべきでしょう。